

鎌ヶ谷市施策評価表(事後)

施策の名称	311広域交流拠点の整備		
施策のねらい (めざす姿)	新鎌ヶ谷駅周辺地区は、交通結節点として、千葉県北西部地域を代表する躍動感と魅力ある交流拠点となっています。		
基本目標	3「躍動感と魅力あふれる交流拠点都市」をめざして	施策担当マネージャー	都市建設部次長
政策	31魅力あふれるまちづくりを進めます	マネージャー氏名	貞方 敦雄

I 改革・改善内容(=施策をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	新京成線連続立体交差事業の完成も見据え、南北自由通路の整備を含めた、新鎌ヶ谷駅を中心とする回遊性の確保のための施策を計画的に進めていく。また、東京10号線延伸新線跡地についても、引き続き土地活用のあり方と取得に向けた検討を行う必要がある。	③改革・改善内容	東京10号線延伸新線跡地について、新鎌ヶ谷駅周辺のにぎわいの創出を図るため、当該跡地の活用について、引き続き千葉県企業局と協議をする必要がある。 また、新鎌ヶ谷駅周辺の回遊性の確保に向けた南北自由通路の整備においても民間活力等を活用した整備を含めた検討を行う必要がある。
②①に基づく取り組み結果	新京成線連続立体交差事業に併せて、南北自由通路の一部を整備した。また、東京10号線延伸新線跡地に関し、土地活用について千葉県企業局と協議を行った。		

II 施策の目的・概要

①目的	対象	新鎌ヶ谷駅周辺地区	意図(対象をどうするのか)	快適性・安全性・利便性が確保され、賑わいのある地区を創造する。
②施策の概要	新鎌ヶ谷駅周辺地区が魅力と活気にあふれる中心市街地として形成されるよう、土地利用の推進や通路等の整備を行う。			
③環境分析(状況変化や今後の見込み・市民意向など)	新京成線連続立体交差事業の完了を見据え、新鎌ヶ谷駅周辺の回遊性の確保も含めた東京10号線延伸新線跡地の活用について、検討する必要がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成29～30年度の施策の成果	新京成線連続立体交差事業に併せて、南北自由通路の一部を整備した。また、東京10号線延伸新線跡地に関し、通路整備も含めた土地活用のあり方等を千葉県企業局と協議をした。						
②施策成果指標	指標名称		単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	目標値(2年度)
	i	新鎌ヶ谷駅乗降客数(1日あたり)	人	99,003	101,206	102,916	100,000
	ii	新鎌ヶ谷地区事業所数	件	245	253	249	270
	iii						
③基本事業成果指標	i	新鎌ヶ谷駅周辺地区市街地整備促進事業進捗率	%	51.0	51.0	65.0	99.0
	ii	新鎌ヶ谷地区事業所数	件	245	253	249	270
	iii						
	iv						
	v						
	vi						
④施策の事業費	平成29年度決算	平成30年度決算	市民一人あたり事業費(30年度決算)		令和元年度予算		
事業費(千円)	23,597	71,828	(単位:円) 657円		25,481		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	東京10号線延伸新線跡地について、新鎌ヶ谷駅周辺の回遊性の確保やにぎわいの創出を目指し、千葉県企業局と協議を継続する必要がある。		
②総合評価	3一部未達成	③総合評価の理由	乗降客数については目標を達成したが、その他については達成にいたらなかった。関連事業と連携を図り効果的な施策を進めていく必要がある。

V 今後の方向性

①施策の方向性	↑ 拡充
②上記方向性の説明	新京成線連続立体交差事業の完了を見据え、新鎌ヶ谷駅周辺の回遊性の確保やにぎわいの創出を目指し、東京10号線延伸新線跡地の活用方法について、千葉県企業局と協議を進めていくため。
③特に重点化する事務事業	新鎌ヶ谷駅周辺地区市街地整備促進事業